



吉 増 剛 造 展

Voix
ヴォイ

2021.5.22 (Sat) ~ 6.20 (Sun)

協力：書肆吉成 コトニ社

■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩 12分・JR 両毛線足利駅徒歩 8分
- ・北関東自動車道足利 IC より 15分 (駐車場 3台あり)

■11:00~18:00 (最終日は 16:00 まで)
月・火曜休廊 (月・火が祭日の場合は営業し、翌日休)

■軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目 2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : <http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/>

「潜りゆく鯨に触れつつある。」

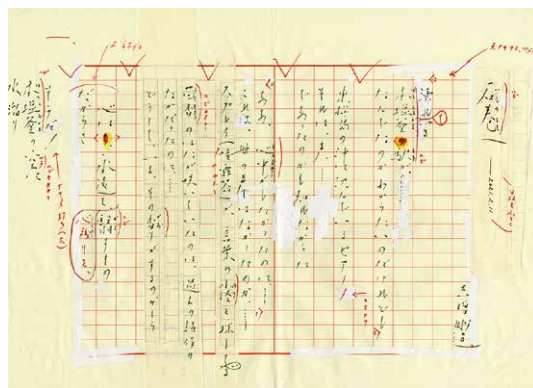
大震災から10年を経て、吉増剛造が自身の今を語ったことばだ。あの時からの吉増の時間は、鎮魂の傍らに、創作の深化と自己の再生があったに違いない。その道程で、2019年に宮城県石巻市で開催された「Reborn-Art Festival 2019」以降、現在も吉増が創作の場として通う、牡鹿半島の漁村、鮎川の海に面したホテルニューさか井の一室は、今と、これからの吉増の活動を支える存在になっているといえる。

私がこの部屋に吉増を訪ねた晩夏の日、その朝、眼前の浜に引き上げられた鯨から振り出したという一片の歯が、原稿や筆記具とともに机の上に置かれていた。それは、さまざまな時の中で喪われてきた者たちと吉増が重なり合う予兆を感じさせるものだった。

こうした日々の中で、吉増は一年ほど前から、「葉書 Ciné」と呼ぶ数分の映像をYouTubeで公開し続け、今や50編に達している。そこで表される時間や場所、記憶の重なりは、かつての映像作品「gozoCiné」や、さらに遡って多重露光による写真を思い起こさせるが、それらは吉増による世界への呼びかけであったのに対して、「葉書 Ciné」での語りは、吉増自身へと還る木霊でもあるように思われてならない。

「葉書 Ciné」は創作の開始から一年を経た現在、さらに深い地点へと進もうとしている。それは、吉増が触れつつある、海の深淵に溶け込んだ無数の記憶や思いに対して、私たちも手を伸ばし得る道を開くかもしれない。

篠原誠司（足利市立美術館学芸員）



「石巻—2021.2.11」原稿 2021年

※原稿の新作詩は河北新報社の求めに応じ書き下されたもので、2月28日の東日本大震災10年特集「言葉の力」に掲載されたものです。

「葉書 ciné」 2020-21年

●ライブパフォーマンス●

吉増剛造氏によるライブパフォーマンスを予定しています。コロナ禍での開催となりますので、定員20名（予約制）とさせていただきます。

- ・6月5日（土）15:00～
- ・定員20名（予約制）
- ・2,000円（ワンドリンク付）



撮影：若本圭司

吉増剛造 Gozo Yoshimasu

1939年東京生まれ。慶應義塾大学国文科卒業。在学中から詩作を始め、1964年の第一詩集『出発』以来、先鋭的な現代詩人として国内外で活躍。同時に詩の朗読パフォーマンスを行い、80年代からは銅板に言葉を刻んだオブジェや写真作品を発表。2016年には個展「声ノマ全身詩人、吉増剛造展」を東京国立近代美術館で開催。2017~18年には、個展「涯テノ詩聲（ハテノウタゴエ）」（2018年）を足利市立美術館、沖縄県立博物館・美術館、渋谷区立松濤美術館で開催。2018~19年には、福島県内の3館、福島県立博物館、はじまりの美術館、壇谷・島尾記念館文学資料で吉増剛造展を開催。2019年、Reborn-Art Festival(石巻市)に参加。2020年、artspace & caféにて個展。2020年より、週一回のペースで「葉書 ciné」をYouTubeにて配信中。

■アクセス■

- ・東武伊勢崎線足利市駅徒歩12分・JR両毛線足利駅徒歩8分
- ・北関東自動車道足利ICより15分（駐車場3台・近くに無料駐車場あり）
- 11:00~18:00（最終日は16:00まで）
- 月・火曜休廊（月・火が祝日の場合は営業し、翌日休）
- 軽食とソフトドリンクもお楽しみいただけます。



artspace & café

〒326-0814 栃木県足利市通2丁目2658

Tel : 0284-82-9172

E-Mail : info@artspace-and-cafe.com

URL : http://artspace-and-cafe-ashikaga.com/

